

八幡公はちまんこう（頼らい 山陽さんよう）

結髪從軍弓箭雄
八州草木識威風
白旗不動兵營靜
立馬邊城看亂鴻

結髪けつぱつ 軍ぐんに 從したごうて 弓箭きゆうせん 雄ゆうなり

八州はっしゅうの 草木そうもく 威風いふうを 識しる

語釈 ※八幡公Ⅱ平安時代後期の武将。源義家のこと。※結髪Ⅱ髪をはじめて結うこと。成人となること。弓箭Ⅱ弓と矢。弓矢をとること。※八州Ⅱ関八州 ※辺城Ⅱ国境の城。※乱鴻Ⅱ雁が列を乱して飛ぶこと。

白旗はっき 動うごかず 兵營へいえい 靜しずかなり

馬うまを 辺城へんじょうに 立たてて 乱鴻らんこうを 看みる

通釈 八幡公は、結髪して成人となったころから、軍に従って戦い、弓矢を取つても雄々しく、関八州では草木までもが、その威風を知っている。さて、後三年の役で奥羽に出征したときは、源氏の白旗は動かず、兵士は落ち着いていて、その兵營も静かで有る。そのとき、八幡公は辺境の城に馬を立てて、空を乱れ飛ぶ雁を見、その下に伏兵のいることを見破った。まことに、八幡公は名将で有る。